

[2025/2026] 九州大学附属図書館研究開発室年報表 紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/7443947>

出版情報：九州大学附属図書館研究開発室年報. 2025/2026, 2026-10-06. 九州大学附属図書館
バージョン：
権利関係：

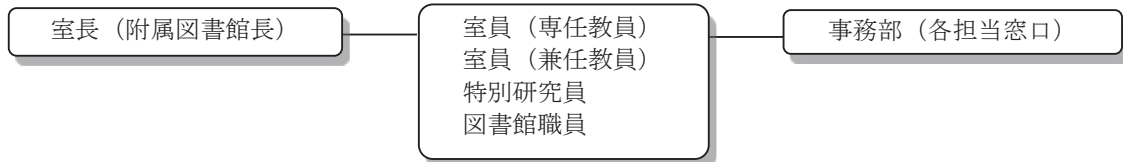


研究開発室の設置

1 設置の目的

九州大学附属図書館研究開発室は、大学における学術情報の収集、加工、蓄積、提供及びその他図書館が行う教育研究支援活動の改善に関する事項のうち、附属図書館長が指定する事項について研究開発を行い、もって高度な図書館サービスの実現に寄与することを目的とする。

2 組織



3 名簿

<令和7年度（4月1日付）>

室長	
内田 誠一	附属図書館長、理事、副学長
室員	
福田 千鶴	附属図書館副館長、 基幹教育院教授
渡邊 由紀子	附属図書館研究開発室准教授
清水 敏之	附属図書館研究開発室准教授
原口 大輔	附属図書館付設記録資料館准教授
梶嶋 政司	附属図書館付設記録資料館助教
川平 敏文	人文科学研究院教授
岩崎 義則	人文科学研究院准教授
山口 道弘	法学研究院教授
中里見 敬	言語文化研究院教授
富浦 洋一	システム情報科学研究院教授
畑埜 晃平	システム情報科学研究院教授
池田 大輔	システム情報科学研究院准教授
石田 栄美	データ駆動イノベーション推進本部教授
山田 政寛	データ駆動イノベーション推進本部教授
永島 広紀	韓国研究センター教授
赤司 友徳	大学文書館准教授
Wolfgang Michel	研究開発室特別研究員
和仁 かや	研究開発室特別研究員、 早稲田大学教授
古賀 康士	研究開発室特別研究員、 同志社大学准教授
平 将志	研究開発室特別研究員、 九州産業大学講師

<令和8年度（4月1日付）>

室長	
内田 誠一	附属図書館長、理事、副学長
室員	
福田 千鶴	附属図書館副館長、 基幹教育院教授
渡邊 由紀子	附属図書館研究開発室准教授
清水 敏之	附属図書館研究開発室准教授
宮地 英敏	附属図書館付設記録資料館准教授
越坂 裕太	附属図書館付設記録資料館准教授
原口 大輔	附属図書館付設記録資料館准教授
梶嶋 政司	附属図書館付設記録資料館助教
坂本 卓也	附属図書館付設記録資料館助教
川平 敏文	人文科学研究院教授
岩崎 義則	人文科学研究院准教授
山口 道弘	法学研究院教授
中里見 敬	言語文化研究院教授
富浦 洋一	システム情報科学研究院教授
畑埜 晃平	システム情報科学研究院教授
池田 大輔	システム情報科学研究院准教授
石田 栄美	データ駆動イノベーション推進本部教授
山田 政寛	データ駆動イノベーション推進本部教授
永島 広紀	韓国研究センター教授
赤司 友徳	大学文書館准教授
Wolfgang Michel	研究開発室特別研究員
和仁 かや	研究開発室特別研究員、 早稲田大学教授
古賀 康士	研究開発室特別研究員、 同志社大学准教授
平 将志	研究開発室特別研究員、 九州産業大学講師
菊池 美幸	研究開発室特別研究員、 追手門学院大学講師

令和7年度における研究開発

1 図書館による学習・教育支援に関する調査研究

室 員 福田 千鶴（附属図書館副館長、基幹教育院教授）
 渡邊由紀子（附属図書館研究開発室准教授）
 清水 敏之（附属図書館研究開発室准教授）
 山田 政寛（データ駆動イノベーション推進本部教授）
 担 当 課 利用者サービス課、学術サポート室

<研究開発の概要>

九州大学における学習・教育活動と連携した新たな教育支援のあり方について調査研究を行うとともに、図書館利用状況の分析にもとづく、新たなサービスの創出に関する調査研究を行う。

<研究開発の内容>

研究開発室に組織された「学習・教育支援WG」による監督・指導の下、図書館TA(Cuter)の大学院生と図書館職員が協働し、学生の視点に立った学習支援を行った。図書館TA(Cuter)は、平成24年3月に図書館学習サポーター(Cuter)として活動を開始し、平成27年12月に正課外での教育支援業務を行うTAとして、学内の教育制度に正式に位置づけられた。さらに令和元年10月より、九州大学の新TA制度開始に伴い、「九州大学ティーチング・アシスタントに関する要項」で定められた、アドバンスド・ティーチング・アシスタント(ATA)として活動している。

令和7年度に実施した調査研究は、以下のとおりである。

1) 図書館TA(Cuter)との協働による学習支援

図書館TA(Cuter)による学習支援活動として、以下を実施した。

- ① 学習相談デスクでの案内・指導…対面で263件、附属図書館ウェブサイトの質問フォームで3件、計266件の相談に対応した。相談対応件数は、令和6年度の約86%に減少した。
- ② Web学習ガイドCute.Guidesの記事作成…図書館TA(Cuter)による新規ガイドを13件追加した。Cute.Guidesで公開中のガイド数は264件、年間アクセス数は約118万件となった。年間アクセス数は令和6年度の約77%に減少した。
- ③ 講習会等の講師および補助…図書館TA(Cuter)が内容設計・教材作成・講師を務める学部1年生向けの「レポートの書き方講座」「実験レポート講座」「プレゼン講座」を実施した。計14回の開催に対し、延べ686名の受講があった。「レポートの書き方講座」では、講座受講前後のレポートに対するイメージ変化を分析した。事前・事後アンケートの自由記述での回答をPositive/Neutral/Negativeの3つに分類したところ、講座受講により、レポートをNegativeに感じている学生の割合は79.4%から12%へ減少し、Positiveに感じている学生の割合が0.7%から46.1%に増加したことが分かった。
- ④ 学生交流イベントの企画・実施…図書館TA(Cuter)が特定テーマについて取り上げるシリーズ企画Cuter Caféを対面とオンラインで計8回開催し、延べ150名の参加があった。また、学部・学府・学年の垣根を越えた学際交流を図るイベントQuriconを対面およびオンラインで1回実施し、12名の参加があった。なお、運営委員の学生および参加者の減少等に伴い、Quriconは本年度をもって終了することとなった。
- ⑤ 企画展示…図書館TA(Cuter)が選書した資料を展示する「Cuter本棚」を計4回実施した。医学図書館においては、丸善博多店での選書ツアーを実施した。
- ⑥ 授業等への協力…高年次基幹教育／大学院基幹教育科目である「プレゼンテーション基礎」「レトリ

ック基礎」の集中講義において、図書館TA(Cuter)2名が授業補助を務めた。また、福岡市科学館が開催するイベント「サイエンスカフェ」において、図書館TA(Cuter)2名が講師を務めた。

2) 教育の国際化に対応した図書館利用教育の拡充

留学生を支援する取り組みとして、以下を実施した。

- ・図書館職員が、文献検索および文献管理について、留学生を対象とした英語による講習会を実施した。令和7年4月開催の文献検索講習会「How to Search for Academic Papers」では、受講者の94%が講習会を「とてもよい」「よい」と評価した。令和7年9月には、4月開催の講習会の録画を利用した動画教材「English Course For Int'l Students」を学内限定で公開、令和7年度中に55回の視聴があった。
- ・新入留学生を対象とした英語と日本語による図書館ツアーを令和7年4月および9月に中央図書館で実施し、図書館TA(Cuter)がツアーコンダクターを務めた。国際部が実施する新入留学生オリエンテーション参加予定者数のうち、令和7年4月は約40%、9月は約41%がツアーに参加した。

3) 基幹教育支援の拡充

九州大学が実施する基幹教育を支援する取り組みとして、以下を実施した。

- ・授業担当教員の推薦をもとに基幹教育用図書を選定し、中央図書館4Fの課題文献コーナーに配架した。
- ・基幹教育を支援する講習会について、学部1年生向け「レポートの書き方講座」「実験レポート講座」「プレゼン講座」を開催した。いずれの講座も対面とオンラインを併用して実施した。

4) Web学習ガイドCute.Guidesによる課題解決支援

Web学習ガイド「Cute.Guides」の記事を、国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築する「レファレンス協同データベース」に“調べ方マニュアル”として積極的に登録および一般公開した実績により、令和元年度から7年連続で、国立国会図書館長より御礼状を受領した。令和7年度は「レファレンス協同データベース」上で計8,848件のアクセスがあった。年間アクセス数は令和6年度の約45%に減少した。

2 九州大学所蔵資料および資料保存に関する調査研究

室 員	川平 敏文	(人文科学研究院教授)
	岩崎 義則	(人文科学研究院准教授)
	山口 道弘	(法学研究院教授)
	中里見 敬	(言語文化研究院教授)
	永島 広紀	(韓国研究センター教授)
	赤司 友徳	(大学文書館准教授)
	原口 大輔	(附属図書館付設記録資料館准教授)
	梶嶋 政司	(附属図書館付設記録資料館助教)
	Wolfgang Michel	(附属図書館研究開発室特別研究員)
	和仁 かや	(附属図書館研究開発室特別研究員)
	古賀 康士	(附属図書館研究開発室特別研究員)
	平 将志	(附属図書館研究開発室特別研究員)
職 員	佐方 小弓	(収書整理課図書受入係)
	日高 環	(収書整理課図書目録係)
	羽賀真記子	(収書整理課雑誌情報係)
	山根 泰志	(eリソース課)
	平野かおる	(eリソース課リポジトリ係)
	原賀可奈子	(利用者サービス課資料サービス係)
	高橋 啓	(利用者サービス課理系参考調査係)

古賀 京子 (医学図書館受入目録係)
中村 智晴 (医学図書館参考調査係)
宮嶋 舞美 (芸術工学図書館目録情報係)
西 真里恵 (筑紫図書館図書係)

担 当 課 収書整理課、eリソース課、利用者サービス課、医学図書館

＜研究開発の概要＞

九州大学が所蔵する貴重資料、コレクション等について、由来や内容、価値等の調査や、画像及び書誌データベース作成等についての調査研究を行うとともに、図書館における資料保存・管理体制等についての調査研究を行う。

＜研究開発の内容＞

1. 貴重図書(主題別)目録作成のための調査

川平敏文室員の指導のもと、中央図書館貴重図書(和本主題別)目録作成のための貴重図書調査を人文科学府の研究員・大学院生が参加し、令和4年度から開始している。

2. 楠本家資料の調査

令和7年度後期開講科目「日本史学実習II」を活用して、受講学生とともに楠本家資料の調査を行った。調査対象は、楠本端山・同碩水の兄弟間で交換された書簡類46点など。書簡については、1点ごとに資料名・作成者・宛先・内容・形態・法量などの基礎データを調査カードに採録。その上で、岡田武彦校訂「楠本端山書簡」『九州文化史研究紀要14号』（昭和44年3月）掲載の翻刻文と対照しつつ、調査を行った書簡本文の翻刻作業を行った。調査データに採録された情報は、エクセル（Excel）にて目録データ化。書簡の翻刻文はワード（Word）にて集約した。また、実習参加者有志により、楠本家資料の調査にあたり参考となる長崎歴史文化博物館が所蔵する「楠本文庫」にある関連資料（端山の年譜類・鳳鳴書院の絵図類・門人帳・書簡類）の撮影と調査を実施した（2026年1月31日）。さらに、長崎県佐世保市教育委員会担当者と楠本端山生家（所在は佐世保市針尾。長崎県指定文化財）に残る伝来資料と活用などについて、2026年3月6日、情報交換を行った。

3. 濱文庫所蔵戯単・レコードのデータベース化

科研費・基盤研究（C）「日本所蔵中国戯単の総合的研究」（2021～2026年度）により、濱文庫に加えて、名古屋大学附属図書館青木文庫、慶應義塾大学図書館および文学部中国文学研究室、早稲田大学演劇博物館と連携して、日本に所蔵される中国戯単の学術的研究を進めた。今年度は慶應義塾大学に所蔵される奥野信太郎旧蔵の戯単について、論文3本を加えた図録を作成し、『奥野信太郎旧蔵戯単目録：慶應義塾大学所蔵中国芝居番付コレクション』として刊行した。

4. 麻生家文書

引き続き「麻生家文書」の整理・目録作成を行い、さらに調査・研究として、麻生家の「発信原稿」については細目録の発表、家政日誌の翻刻、別荘の図面の分析を行った。

・田代恵悟・原口大輔「「麻生家文書」発信原稿細目録（一）」『九州大学附属図書館研究開発室年報』2024/2025、2025年9月

・原口大輔「「新規整理分」麻生家文書目録（七）」『麻生家文書叢書』創刊号、2026年3月

・原口大輔「【資料紹介】麻生本家と「大正四年日誌」」『エネルギー史研究』第41号、2026年3月

・原口大輔「浜の町別荘の図面」『九州大学附属図書館付設記録資料館ニューズレター』第20号、2026年3月

5. 法制資料の調査・研究

科研費基盤研究(C)「近世債権法史の再検討—九州大学所蔵資料を手掛かりとした研究基盤の再構築—」（2021～2025年度/研究代表者:和仁かや(早稲田大学))により、引き続き記録資料館法制資料部門所蔵資料を中

心に整理及び調査研究を実施した。令和7年度は科研最終年度に当たっていたこともあり、これまで長らく未整理もしくは混乱が生じていた資料につき、メタデータの再整備を念頭に置きつつ目録化も含めた対応を進め、課題はほぼ解決するに至った。また金田文庫のうち、金田平一郎個人資料の一部をデジタル化した他、関連する資料の調査も行った。なお令和7年度より法学研究院の山口道弘教授が新たに研究開発室員として加わっている。

また、令和6年度公刊した論文「九州大学法制史料—九州帝国大学法文学部の学問基盤—」では、戦前期の東京大学と九州大学における史料蒐集活動の密接な関連が明らかとなった。このことをさらに具体的に分析し、資料保存やデジタル公開のあり方を検討する上での重要な素材ともすべく、東京大学法学部研究室図書室法制史資料室に残された蒐集記録を調査した。

6. 医学図書館

1) ミヒエル文庫の整備

ヴォルフガング・ミヒエル（Wolfgang Michel）名誉教授より寄贈された資料のうち、未整理の資料を中心に約450冊の目録作成および書誌事項の調整を行った。

2) 久保記念館所蔵資料の移設および整理・修復

久保記念館所蔵資料のうち、貴重古医書を中心とする図書197点を医学図書館へ移設した。あわせて、館内資料とともに130点について燻蒸およびクリーニングを実施し、整理を行った。また、本木良意夫妻絵像（掛軸）、仙厓筆「耳鳴」（額装）については、専門業者による修復を行った。さらに移設資料の一部についてデジタル画像を作成し、公開を行った。

3) 展示会「本でめぐる、医学の歴史」の開催

- ・期間：令和7年8月1日（金）～令和7年11月3日（月）
- ・会場：九州大学医学図書館1階展示室

杉田玄白『解体新書』や北里柴三郎の論文などを展示し、医学図書館の貴重な医学資料を保存・所蔵していることを学内外に広く周知した。

4) 貴重資料の修復

展示会で使用する資料を中心に、以下の貴重資料について修復を行った。（盈盈灘水碧羅紈、青洲先生醫譚、青洲先生卷木棉整骨図死活附録、五臓之守護并虫之圖、『Nippon』 出島の図（Atlas.1 No.12））

7. 資料保存関係

1) 虫害対策

中央図書館においては、冷凍庫を用いた低温殺虫処理を定期的に行っている。令和7年度は、古典籍や医学図書館からの処置依頼資料を中心に年間約300点の処置を行った。また、中央図書館において、館内の複数箇所へ害虫調査用のノンフェロモントラップを設置し、継続的な調査を行っている。

2) カビ対策

中央図書館において、令和6年度に引き続き、3階3Bエリアで発見されたカビの発生した資料の処置を行っている。環境対策としても、多湿期における備え付け除湿機の稼働時間の延長や当該エリアへの家庭用除湿機の設置、3階書架エリアの空調を夜間の数時間稼働させ空気を循環させる等の措置を行い、大幅な悪化は防げている。令和7年度中にも原因は特定できず、施設部と連携しながら環境改善に取り組んでいる。

3) 環境管理

中央図書館において、エントランスで資料展示を行う際に、展示ケースの中にデータロガーを設置し、温湿度状況についてのモニタリング調査を行った。今後も資料展示ごとに温湿度状況を確認し、展

示資料に影響を及ぼさないように、季節ごとの温湿度状況に応じた対策を講じる。また、重要文化財に指定された「金光明最勝王経」の帙が傷んでいたため、新たに保存用の紙箱を設計・作成した。

医学図書館においても、虫害対策としてトラップ調査や、害虫侵入予防を目的とした館外清掃作業を定期的に実施した。加えて、3階書庫の書架および資料の清拭作業、データロガーによる温湿度の記録と、適切な空調管理を行った。

4) 研修の実施

図書系職員初任者研修において「資料保存について」の講義を担当した。

5) 研修への参加

東京大学東洋文化研究所主催で行われた令和7年度漢籍整理長期研修に職員1名が参加し、10日間の日程で、漢籍の分類や漢籍整理に関する講義・実習を受講した。また、一橋大学社会科学古典資料センター主催で行われた令和7年度西洋社会科学古典資料講習会に職員1名が参加し、3日間の日程で、西洋社会科学古典研究、西洋書誌学、西洋古典資料の保存・管理に関する講義を受講した。

3 図書館に係る学術情報の流通および発信に関する調査研究

室 員	清水 敏之	(附属図書館研究開発室准教授)
	富浦 洋一	(システム情報科学研究院教授)
	畑埜 晃平	(システム情報科学研究院教授)
	池田 大輔	(システム情報科学研究院准教授)
	石田 栄美	(データ駆動イノベーション推進本部教授)
職 員	宮崎 祐汰	(利用者サービス課学習・研究支援係)
担 当 課	eリソース課	

< 研究開発の概要 >

学術情報資源（研究データ等を含む）をより効果的に蓄積・発信するために、管理・発信機能の高度化と検索システムに関する研究開発を行うとともに、それらを活用した新たなサービスの創出に関する調査研究を行う。

< 研究開発の内容 >

研究データの公開・利活用の拡大に伴い、研究者が目的に応じた研究データを効率的に発見・利用できる支援手法の重要性が高まっている。一方で、研究データは数値や画像など多様な形式で構成されるため、全文検索が適用しづらく、メタデータの記述不足や利用者視点との乖離などにより、適切な情報発見が難しい場合がある。そこで、大規模言語モデル（LLM）を活用し、研究データ推薦の根拠となる関連論文のランキング手法や、研究データの発見性向上に向けたキーワード推薦手法について検討した。特に、研究データの利用文脈を考慮した情報推薦や、複数の視点を活用したキーワード生成手法について検討した。

さらに、研究データを利用した論文等のデータ利用事例に着目し、データ提供者によるメタデータのみでは表現しきれない情報を補完する拡張的なメタデータの活用について検討した。特に、DIAS（データ統合・解析システム）の地球環境データを対象に、データ利用論文中の記述を活用したメタデータ拡張手法の有効性を議論した。

データセットの整備については、日本語の歌詞の極性判定に対する訓練例（ラベル付きデータ）の構築を行った。また、昨年より引き続き、経済学分野の共同研究で、有価証券報告書内の将来予測に関する記述について、各文がポジティブかネガティブかについてのラベル付けを行っている。複数のアノテータによるラベル付けを行ったが、レビュー文に対する一般的な極性判定と比較して、どちらも一致率が低く、人間にと

っても難しい課題であることが分かった。

4 図書館における高度専門知識を有する人材育成に関する調査研究

室 員 渡邊由紀子（附属図書館研究開発室准教授）
石田 栄美（データ駆動イノベーション推進本部教授）
担 当 課 図書館企画課、学術サポート室

<研究開発の概要>

国内外の図書館の動向を踏まえつつ、図書館職員の専門性および次世代を担う情報専門職の育成をはかるための調査研究を行う。

<研究開発の内容>

貴重文物講習会の実施

附属図書館が所蔵する様々なコレクションについて学ぶ貴重文物講習会を、令和7年度は3回実施した。

[第53回] 2025/11/1 デジタルで歴史をひらくーこれからの人文情報学ー 関連講演会

講師：荒木和憲 人文科学研究院准教授、蛭沼芽衣 人文科学研究院助教

[第54回] 2025/12/18 江戸・明治・大正・昭和と炭鉱札ー記録資料館の炭鉱札を中心にして

講師：宮地英敏 附属図書館付設記録資料館准教授

[第55回] 2026/1/15 グロティウス『戦争と平和の法』の400年

講師：柳原正治 名誉教授、宮崎祐汰 利用者サービス課学習・研究支援係員

令和8年度研究開発室研究開発事項

総 括

	事 項	研究開発の総括
	概 要	大学における学術情報の収集、加工、蓄積、提供及びその他図書館が行う学習・教育・研究支援活動の改善に関する事項のうち、九州大学附属図書館研究開発室において行う課題を指定し総括する。
	室 長	内田誠一（附属図書館長、理事、副学長）
	担 当	図書館企画課

I 学習・教育活動との連携に関する分野

1	事 項	図書館による学習・教育支援に関する調査研究
	概 要	九州大学における学習・教育活動と連携した新たな教育支援のあり方について調査研究を行うとともに、図書館利用状況の分析にもとづく、新たなサービスの創出に関する調査研究を行う。
	室 員	福田千鶴（副館長） 渡邊由紀子（研究開発室） 清水敏之（研究開発室） 山田政寛（データ駆動イノベーション推進本部）
	担 当	利用者サービス課、学術サポート室

II コンテンツ形成および学術情報発信に関する分野

2	事 項	九州大学所蔵資料および資料保存に関する調査研究
	概 要	九州大学が所蔵する貴重資料、コレクション等について、由来や内容、価値等の調査や、画像及び書誌データベース作成等についての調査研究を行うとともに、図書館における資料保存・管理体制等についての調査研究を行う。
	室 員	川平敏文（人文科学研究院） 岩崎義則（人文科学研究院） 山口道弘（法学研究院） 中里見敬（言語文化研究院） 永島広紀（韓国研究センター） 赤司友徳（大学文書館） 宮地英敏（付設記録資料館） 越坂裕太（付設記録資料館） 原口大輔（付設記録資料館） 梶嶋政司（付設記録資料館） 坂本卓也（付設記録資料館） Wolfgang Michel（特別研究員） 和仁かや（特別研究員） 古賀康士（特別研究員） 平将志（特別研究員） 菊池美幸（特別研究員）
	担 当	収書整理課、利用者サービス課、医学図書館
3	事 項	図書館に係る学術情報の流通および発信に関する調査研究
	概 要	学術情報資源（研究データ等を含む）をより効果的に蓄積・発信するために、管理・発信機能の高度化と検索システムに関する研究開発を行うとともに、それらを活用した新たなサービスの創出に関する調査研究を行う。
	室 員	清水敏之（研究開発室） 富浦洋一（システム情報科学研究院） 畑埜晃平（システム情報科学研究院） 池田大輔（システム情報科学研究院） 石田栄美（データ駆動イノベーション推進本部）
	担 当	eリソース課

III 図書館運営に関する分野

4	事 項	図書館における高度専門知識を有する人材育成に関する調査研究
	概 要	国内外の図書館の動向を踏まえつつ、図書館職員の専門性および次世代を担う情報専門職の育成をはかるための調査研究を行う。
	室 員	渡邊由紀子（研究開発室） 石田栄美（データ駆動イノベーション推進本部）
	担 当	図書館企画課、学術サポート室

沿革・会議日誌

- H8. 2. 20 評議会において「九州大学附属図書館研究開発室の設置について」を決定
H8. 3. 19 附属図書館商議委員会において、「九州大学附属図書館研究開発室要項」承認
H8. 4. 1 研究開発室設置（5年期限）
H9. 5 『附属図書館研究開発室の概要』発行開始
H11. 7. 1 教官運用定員により、専任教官として南俊朗助教授着任
H13. 3. 1 研究開発室業務成果報告会を開催し、評議会への報告を行った。この結果、さらに5年間の研究開発室の存続が承認

H13.10. 1 南助教授が九州情報大学に転出、専任教官として喜田拓也講師着任
H16. 4. 1 喜田講師が北海道大学に転出、専任教員として池田大輔助教授着任
H17. 6. 1 『九州大学附属図書館研究開発室年報』発行開始
H18. 2. 17 将来計画委員会において研究開発室の常設化が承認
H18. 8. 1 池田助教授がシステム情報科学研究院に異動
H18. 10. 1 専任教員として井上創造助教授着任
H21. 5. 1 井上准教授が九州工業大学に転出
H21. 8. 1 専任教員として馬場謙介准教授着任
H23. 4. 1 専任教員として石田栄美准教授着任
H27. 8. 1 馬場准教授が富士通研究所に転出、専任教員として畑埜晃平准教授着任
H29.11. 1 畑埜准教授が基幹教育院に異動
H30. 4. 1 専任教員として内山英昭准教授着任
R3. 4. 1 内山英昭准教授が奈良先端科学技術大学院大学に転出
R3. 8. 1 専任教員として清水敏之准教授着任
R5. 1. 1 石田准教授がデータ駆動イノベーション推進本部に異動
R6. 4. 1 専任教員として渡邊由紀子准教授着任

論文・発表・関連講演会等

令和7年度（第30年次：令和7年4月～令和8年3月）

原著論文

- R7.12 Sakura Yasuda, Emi Ishita, Yukiko Watanabe & Li Liu, A Comprehensive Review of Research Data Sharing and Publication. In: Oh, S. et al. (eds) *Intelligence and Equity: Shaping the Future of Knowledge*. ICADL 2025. *Lecture Notes in Computer Science*, vol 16242. Springer, Singapore. pp.436-443, 2025.12. https://dx.doi.org/https://doi.org/10.1007/978-981-95-4861-3_37
- R8.1 和仁かや, ある書籍の遍歴：金田平一郎博士旧蔵『宮崎先生 法制史論集』をめぐって, *大警視だより 続刊*, vol.22, pp.50-51, 2026.1.
- R8.3 渡邊由紀子, 協働で拓く大学図書館の新たな可能性, *館灯*, 64, pp.12-25, 2026.3.
- R8.3 中里見敬, 《致周作人日文書信目録》之編輯與其學術意義, *言語科学*, vol.61, pp.1-14, 2026.3.

学会発表等

- R7.7 Eriko Musashi, Takaaki Hosoda, and Daisuke Ikeda, Exploring Pre-Senior Decision-Making Styles Using the Qualitative Synthesis Method, *IIAI Letters on Business and Decision Science*, Vol.5, 2025 (Proceedings of 6th International Conference on Decision Science, Theory and Management (DSTM 2025))
- R7.7 Daichi Hishioka and Daisuke Ikeda, Change Detection for Popular Song Lyrics before and after Social Events using a Topic Model, Proceedings of the 18th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI), the 20th International Conference on E-Service and Knowledge Management (ESKM 2025), pp.125-130, 2025.
- R7.7 Minghao Wu and Daisuke Ikeda, A GNN model for Fraud Detection Focusing on the Distribution of Neighboring Nodes, Proceedings of the 18th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI), the 20th International Conference on E-Service and Knowledge Management (ESKM 2025) pp.25-30, 2025.
- R7.7 Kentaro Haraguchi, Yasuhiro Tamba, Daisuke Ikeda, Shuji Abe, Machine Learning-Based Simulation of Accounting Information's Contribution in the Municipal Bond Market, Proceedings of the 18th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI), the 20th International Conference on E-Service and Knowledge Management (ESKM 2025) pp.631-635, 2025.
- R7.10 渡邊由紀子, 協働で拓く大学図書館の新たな可能性, 2025年度私立大学図書館協会西地区部会研究会「前を向いて進む図書館 ～図書館の可能性を示す新たな試み～」, 2025.10.
- R7.11 中里見敬, 《致周作人日文書信目録》之編輯與其學術意義, 2025 破與立：中文研究與教學國際學術研討會, 臺灣中文學會・國立臺灣師範大學國文學系, 2025.11.
- R7.12 Yuga Omori, Mika Tamura, and Daisuke Ikeda, Identifying challenges in predicting L2 dynamic self-confidence using speech features from unbalanced data, 19th International Conference on Learning Technologies and Learning Environments (LTLE 2025-Winter), pp.77-82, 2025.
- R8.2 清水敏之, 中原陽子, 島井博行, 地球環境データに対する周辺情報を用いた拡張的メタデータの検討, 第18回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM 2026), 2026.2.

- R8.3 渡邊由紀子, 大学図書館における情報リテラシー教育の展開と動向, 第 21 回レファレンス協同データベース事業フォーラム「レファレンスサービスの今後—レファレンス協同データベースの 20 年—, 国立国会図書館, 2026.3.

著書・総説・論評・解説・書評・報告書等

- R7.9 田代恵悟, 原口大輔, 「麻生家文書」発信原稿細目録 (一), 九州大学附属図書館研究開発室年報, 2024/2025, pp.1-37, 2025.9.
- R7.11 渡邊由紀子, 九州大学大学院ライブラリーサイエンス専攻による大学図書館員の人材育成; パネルディスカッション. In: U-PARL 編・中尾道子編, いま、なぜサブジェクト・ライブラリアンなのか : 図書館をめぐる知の変革のために, 文学通信, 2025.11. (ISBN:9784867660980)
- R7.12 波多野真矢, 谷曙光, 田村容子著, 中里見敬, 松浦恆雄整理編纂, 奥野信太郎旧蔵戯単目録: 慶應義塾大学所蔵中国芝居番付コレクション, 福岡: 花書院, 120pp, 2025.12.
- R8.3 原口大輔, 浜の町別荘の図面, 九州大学附属図書館付設記録資料館ニューズレター, 第 20 号, pp.5-6, 2026.3.
- R8.3 原口大輔, 「新規整理分」麻生家文書目録 (七), 麻生家文書叢書, 創刊号, pp.1-474, 2026.3.
- R8.3 原口大輔, 【資料紹介】麻生本家と「大正四年日誌」, エネルギー史研究, 第 41 号, pp.91-130, 2026.3.

学会活動

令和7年度（第30年次：令和7年4月～令和8年3月）

学協会役員等への就任

渡邊由紀子	2023.4, 日本図書館情報学会, 編集委員.
清水敏之	情報処理学会データベースとデータサイエンス研究会, 幹事.
清水敏之	電子情報通信学会データ工学研究専門委員会, 専門委員.
清水敏之	日本データベース学会若手活性化委員会, 委員.
清水敏之	日本データベース学会会員交流委員会, 委員.

学会・研究会における座長等

清水敏之	WebDB 夏のワークショップ 2025, 実行委員.
清水敏之	第18回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム(DEIM 2026), ローカル共同委員長.
池田大輔	20th International Conference on E-Service and Knowledge Management (ESKM 2025) Conference Chair

学術論文等の審査

清水敏之	情報処理学会論文誌, 査読委員
池田大輔	20th International Conference on E-Service and Knowledge Management (ESKM 2025), 情報処理学会, 21st International Conference on E-Service and Knowledge Management (ESKM 2025-Winter)

調査・視察等

令和7年度（第30年次：令和7年4月～令和8年3月）

R7.5.12-14	星子奈美, 大澤紗都	COAR Annual Conference 2025（於：一橋講堂）
R7.6.2-6.9, 9.1-9.5	原賀可奈子	漢籍整理長期研修（於：東京大学東洋文化研究所）
R7.6.23-25	古賀京子	西洋社会科学古典資料講習会（於：一橋大学社会科学古典資料センター）
R7.7.9	和仁かや, 山根泰志	東京大学法学部研究室図書室法制史資料室所蔵史料蒐集記録調査（於：同室）
R7.9.21-28	石田栄美, 兵藤健志, 大澤紗都	オープンサイエンス・オープンアクセスの海外事例調査（アメリカ）
R7.10.9-10	石田栄美, 堀優子, 平野かおる	研究データエコシステム構築事業シンポジウム 2025（於：一橋講堂）

R7.10.21-22	星子奈美, 竹内嘉与子, 春藤ゆう	RA 協議会第 11 回年次大会 (於: 熊本城ホール)
R7.10.22-24	日高環, 室井万穂	第 27 回図書館総合展 (於: パシフィコ横浜)
R7.10.23	竹内嘉与子	URA 実務者養成講座 (於: くまもと県民交流館)
R7.12.1-3	富浦洋一, 大澤紗都	大学 ICT 推進協議会 2025 年度年次大会 (於: 札幌コンベンションセンター)
R7.12.11-12	富浦洋一, 石田栄美, 鈴木雅子, 堀優子, 兵藤健志, 芦北卓也, 大澤紗都, 星子奈美, 竹内嘉与子, 宮崎祐汰, 春藤ゆう	九州・沖縄オープンユニバーシティ (KOOU) 研究支援人材の資質向上 WG/研究データ管理・利活用 WG 合同ワークショップ (於: 大分県労働福祉会館ソレイユ)
R7.12.13-14	堀優子, 詫間沙由香	じんもんこん 2025 (於: 椎木講堂)
R8.1.25-30	金子芙弥	Charleston Conference Asia への参加、近隣大学への訪問調査 (タイ)
R8.1.31	岩崎義則	楠本文庫の調査 (長崎歴史文化博物館)
R8.2.11-22	石田栄美, 星子奈美, 宮崎祐汰	IDCC26 (The 20th International Digital Curation Conference) への参加、および、ポスターセッション、ライトニングトークでの発表／オープンサイエンス・オープンアクセスの海外事例調査 (ドイツ, クロアチア)
R8.2.27	兵藤健志	研究データエコシステム東北コンソーシアム第 2 回シンポジウム (於: TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台西口)
R8.3.3	佐野直樹	第 4 回東海地区学術データ基盤セミナー第 10 回研究データエコシステム東海コンソーシアムセミナー合同セミナー (於: ウィンクあいち)
R8.3.5-6	竹内嘉与子	研究データ管理の実践に関するワークショップ (於: 琉球大学)
R8.3.6	岩崎義則	佐世保市の楠本端山生家の現状と伝来した資料に関する情報交換 (佐世保市教育委員会)
R8.3.18-19	佐野直樹	大学等におけるクラウドサービス利用シンポジウム 2026 (於: 広島大学)

関連規則等

九州大学附属図書館規則

平成16年度九大規則第139号

施行：平成16年4月1日

最終改正：令和6年3月13日

(令和5年度九大規則第29号)

(趣旨)

第1条 この規則は、九州大学学則（平成16年度九大規則第1号。以下「学則」という。）第10条第2項の規定に基づき、附属図書館の内部組織その他必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 附属図書館は、図書館資料を収集管理し、九州大学（以下「本学」という。）の職員及び学生の調査・研究に資することを目的とする。

(館長)

第3条 学則第25条の規定により、附属図書館に、館長を置く。

(副館長)

第4条 学則第25条の規定により、附属図書館に、副館長を置く。

(中央図書館)

第4条の2 附属図書館中央図書館（以下「中央図書館」という。）を、伊都地区イーストゾーンに置く。

(分館)

第5条 附属図書館に、分館として、病院地区に医学図書館を、大橋地区に芸術工学図書館を、筑紫地区に筑紫図書館を、伊都地区ウエストゾーンに理系図書館を置く。

(分館長)

第6条 分館（理系図書館を除く。）に、分館長を置く。

2 医学図書館の分館長（「医学図書館長」と称する。）は、病院地区に置かれた部局の教授をもって充てる。

3 芸術工学図書館の分館長（「芸術工学図書館長」と称する。）は、大橋地区に置かれた部局の教授をもって充てる。

4 筑紫図書館の分館長（「筑紫図書館長」と称する。）は、筑紫地区に置かれた部局の教授をもって充てる。

5 分館長は、館長の統轄のもとに、分館の事務を掌理する。

(研究開発室)

第6条の2 附属図書館に、研究開発室を置く。

2 研究開発室の業務及び組織に関し必要な事項は、総長の承認を経て、館長が定める。

(部局図書室)

第7条 附属図書館に、別府病院図書室を置く。

(記録資料館)

第8条 附属図書館に、記録資料館を付設する。

2 記録資料館の組織、運営等に関し必要な事項は、別に定める。

(商議委員会)

第9条 附属図書館に、図書館に関する重要事項を審議するため、商議委員会を置く。

2 商議委員会の組織、議事の手続その他必要な事項は、別に定める。

(運営委員会)

第10条 中央図書館及び分館（以下「中央図書館等」という。）に、中央図書館等の運営等を審議させるため、運営委員会を置く。

2 各運営委員会の組織、議事の手続その他必要な事項は、当該中央図書館等が置かれた地区の部局の意見を聞いて、館長が定める。

(運営)

第11条 この規則に定めるもののほか、附属図書館の運営等に関して必要な規則は、別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成16年度九大規則第227号）

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則（平成17年度九大規則第16号）

この規則は、平成17年10月1日から施行する。

附 則（平成17年度九大規則第88号）

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成18年度九大規則第127号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する

附 則（平成20年度九大規則第105号）

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成22年度九大規則第152号）

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成23年度九大規則第7号）

この規則は、平成23年6月1日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

附 則（平成24年度九大規則第56号）

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成26年度九大規則第109号）

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成30年度九大規則第40号）

この規則は、平成30年10月1日から施行する。

附 則（令和4年度九大規則第40号）

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

附 則（令和5年度九大規則第29号）

この規則は、令和6年4月1日から施行する。

九州大学附属図書館研究開発室規程

平成17年度九大規程第54号

施行：平成18年4月1日

最終改正：令和 6年7月1日

(令和6年度九大規程第16号)

(趣旨)

第1条 この規程は、九州大学附属図書館規則（平成16年度九大規則第139号）第6条の2の規定に基づき、研究開発室の業務及び組織に関し必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 研究開発室は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 研究開発の総括
- (2) 学習・教育活動との連携に関する分野の調査研究
- (3) コンテンツ形成及び学術情報発信に関する分野の調査研究
- (4) 図書館運営に関する分野の調査研究
- (5) その他図書館機能の高度化に関する研究開発

(組織)

第3条 研究開発室は、室長及び室員をもって構成する。

(室長)

第4条 室長は、附属図書館長をもって充てる。

2 室長は、研究開発室の業務を掌理する。

(運営委員会)

第5条 研究開発室に、研究開発室の重要事項を審議するため、研究開発室運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 室長
- (2) 附属図書館副館長
- (3) 研究開発室に所属する教員
- (4) その他室長が必要と認めた者 若干人

3 前項第4号の委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前項の委員は、再任されることができる。

5 運営委員会に委員長を置き、室長をもって充てる。

6 委員長は、運営委員会を主宰する。

(室員)

第6条 室員は、研究開発室に所属する教員並びに次条及び第8条に規定する者をもって充てる。

2 室員は、室長の命を受け、研究開発室の業務を行う

(兼任の教員)

第7条 研究開発室に、兼任の教員を置くことができる。

2 兼任の教員は、九州大学の教員のうちから附属図書館長の推薦に基づき、総長が任命する。

3 兼任の教員の任期は、兼任の教員となった日の属する年度の末日までとし、再任を妨げない。

(研究開発室特別研究員)

第8条 附属図書館長は、研究開発室の業務を推進するため、学外有識者を研究支援者として委嘱することができる。

2 前項の研究支援者を研究開発室特別研究員と称する。

3 研究開発室特別研究員の任期は、研究開発室特別研究員となった日の属する年度の末日までとし、再任を妨げない。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、研究開発室の業務等に関し必要な事項は、室長が定める。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成20年度九大規程第8号）

1 この規程は、平成20年6月12日から施行する。

2 この規程の施行後、最初に委嘱される研究開発室特別研究員の任期は、この規程による改正後の九州大学附属図書館研究開発室規程第7条第3項の規定にかかわらず、平成21年3月31日までとする。

附 則（平成22年度九大規程第23号）

この規程は、平成22年7月21日から施行し、平成22年7月1日から適用する。

附 則（平成22年度九大規程第171号）

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成30年度九大規程第36号）

この規程は、平成30年10月1日から施行する。

附 則（令和3年度九大規程第51号）

この規程は、令和3年7月5日から施行する。

附 則（令和6年度九大規程第16号）

この規程は、令和6年7月1日から施行する。

九州大学附属図書館研究開発室運営委員会要項

(趣旨)

第1条 この要項は、九州大学附属図書館研究開発室規程第5条に規定する研究開発室運営委員会（以下「運営委員会」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 研究開発室の教員人事に関する事。
- (2) 教員の研究業務に係る重要事項に関する事。
- (3) 研究開発室内の諸規則等の制定改廃に関する事。
- (4) 研究開発室の自己点検・評価に関する事。
- (5) その他研究開発室の管理運営に関する事。

2 前項第1号に掲げる事項のうち、教員の選考のための資格審査については、原則として、研究開発室に設置する教員選考委員会において行うものとする。ただし、必要に応じて研究開発室の教育研究に係る部局の教授会において行うことができる。

(議事)

第3条 運営委員会は、委員の2分の1以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

2 運営委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(意見の聴取)

第4条 運営委員会において、委員長が必要と認めるときは、委員以外の者に出席を求め、その意見を聞くことができる。

(事務)

第5条 運営委員会に関する事務は、図書館企画課において処理する。

(雑則)

第6条 この要項に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て、室長が定める。

附 記

この要項は、平成23年6月6日から実施し、平成23年4月1日から適用する。

九州大学附属図書館研究開発室要項

(趣 旨)

1 この要項は、九州大学附属図書館研究開発室規程（平成17年度九大規程第54号）第9条の規定に基づき、九州大学附属図書館研究開発室（以下「研究開発室」という。）の業務等に関し必要な事項を定めるものとする。

(研究開発)

2 附属図書館長は、研究開発事項及び期間を定め、研究開発事項に適した者を室員として選抜するものとする。

(総長への室員の推薦)

3 附属図書館長は、総長に室員を推薦するにあたり、室員が所属する部局等の長の承諾を得るものとする。

(研究開発成果等の報告)

4 研究開発室長は、研究開発の成果及び進捗状況を適宜商議委員会等に報告するものとする。

(運営経費)

5 研究開発室の運営に関する経費は、附属図書館の予算上可能な範囲で支弁するものとする。

(その他)

6 この要項に定めるもののほか、研究開発室の運営については、研究開発室長の定めるところによる。

附 則

この要項は、平成8年4月1日から実施する。

附 則

この要項は、平成13年7月16日から実施し、平成13年7月1日から適用する。

附 則

この要項は、平成18年4月1日から実施する。

附 則

この要項は、平成23年7月25日から実施し、平成23年4月1日から適用する。

九州大学附属図書館研究開発室年報 編集規定

(目的)

1 本誌は、本学附属図書館研究開発室の年間の活動状況を報告することを主たる目的とし、併せて、本学附属図書館研究開発室員及び本学図書館職員の研究活動成果としての論文、報告記事等を掲載することを目的とする。

(編集委員会)

2 編集委員会を本学附属図書館研究開発室に置く。編集委員会は、館長、副館長、研究開発室専任室員、事務部長から構成する。

(論文・記事の投稿)

- 3 投稿原稿は、投稿規定に従い、下記編集事務局へ送付または持参する。投稿原稿は、上記編集目的に沿った未発表原稿であること。

<投稿先>

附属図書館図書館企画課企画係

(編集事務)

- 4 編集事務は、附属図書館図書館企画課企画係において処理する。

(校正)

- 5 初校及び再校は、投稿者の責任において行う。

九州大学附属図書館研究開発室年報 投稿規定

- 1 本誌への投稿資格者は、以下のいずれかに該当する者とする。

- 1) 本学附属図書館研究開発室員及び本学図書館職員
- 2) 1に該当する者との共同研究者または共著者
- 3) 1に該当する者から推薦され、編集委員会から許可を得た者

- 2 本誌に掲載される原稿は、未公開の内容のものとし、文献種別は下記の種類から選択する。

- 1) 論文
- 2) 報告
- 3) 目録
- 4) 資料紹介
- 5) 事例紹介

原稿は横書きとし、指定のテンプレートファイルを用いて作成すること。

ページ数については、1・2・3は20ページ以内、4・5は1～2ページ程度を目安とする。内容的に資料・事例紹介であっても、長文となる場合は2を選択する。

縦書きを希望する場合、ページ数が超過する場合は、投稿申込時に編集事務担当に相談すること。

横書き 1 段組み 1 行 4 4 字・4 8 行 (2 1 1 2 字)

- 3 原稿は電子ファイルでの投稿を原則とする。本文は MS・Word 形式とし、附表は MS・Excel 形式、図は jpg、png、gif、tiff、ai、bmp、pict、eps 形式とする。TeX 形式等これら以外の形式のファイルで提出する場合は、投稿申込時に編集事務担当に相談すること。

- 4 原稿は次の順に記載する。

- 1) 文献種別 2) 標題 (和文) 3) 執筆者名 (和文) 4) 抄録 (和文) 5) キーワード (和文) 6) 標題 (欧文) 7) 執筆者名 (欧文) 8) 本文 9) 引用文献、参考文献

文献種別が目録・資料紹介・事例紹介の場合、抄録は不要とする。なお、執筆者の所属・職名・住所・連絡先は 1 ページ目下部に、脚注については各ページの下部に記載することとする。

- 5 表記は次のとおりとする。

- 1) 表記は常用漢字、現代かなづかいに従う。
- 2) 数字は算用数字を用いる。
- 3) フォントは和文では MS 明朝、欧文では Times New Roman を使用する。
- 4) フォントサイズは以下の通りとする。
 - ・タイトル：16pt
 - ・サブタイトル：14pt
 - ・執筆者名：12pt

- ・欧文タイトル：16pt
- ・欧文サブタイトル：14pt
- ・欧文執筆者名：12pt
- ・段落みだし：10.5pt（太字）
- ・本文、抄録・キーワード：10pt

5) 和文の句読点は「。」、「、」とし、欧文の句読点は「.」、「,」を使用すること。

6) 引用文献、参考文献の記載は、投稿者の専門学問領域の慣行に従うこと。

7) 表・図・図版については、投稿時に挿入位置に貼り付け、キャプションをつけること。また、別途原図を提出すること。キャプションは表については上部に、図・図版については下部に配置する。どちらもセンタリングすること。キャプションのフォントサイズは9ptとする。

8) 特定の文字列にハイパーリンクを設定する場合は、コメント機能等によりその旨編集事務担当がわかるようにすること。

6 本誌は九州大学学術情報リポジトリ（QIR）により発行し、その日付を奥付の発行日とする。

本誌に掲載された著作物の著作権は著者に帰属する。当該著作物は、クリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 4.0 国際（CC BY-NC-ND 4.0）ライセンス及びその後継版のもと公開する。著者の希望がある場合は、その他のクリエイティブ・コモンズ・ライセンスを選択することも可能とする。

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja>

7 提出原稿には全ての著者の ORCID iD を記載することを推奨する。記載された ORCID iD は掲載原稿にも表示する。ORCID iD の詳細については以下を参照のこと。<https://orcid.org/>